

PROSPECTIVE EMPLOYEES MAGAZINE

Vol. 6
内 定 者 マ ガ ジ ン

前回から引き続き「最終選考官インタビュー」をお届けします。OSTechには複数の最終選考権限を持った社員がいます。しかし、「内定が出るか・出ないかの場」となると緊張してしまい、その社員がどのような人柄で、どのような背景を持った人物なのか興味があっても気軽に質問がしにくいのではないのでしょうか？これから紹介する最終選考官たちは、会社のことをよく知り活躍している社員です。2回目は採用部の幹部社員である山口・蓮尾の2人に対談形式で話を聞きました！



【社員紹介】

（左）山口 義之

元システムエンジニアの最終選考官。現在はOSTech新卒採用部全体の予算管理や式典の運営など幅広い業務の責任者。

（右）蓮尾 翔太

元営業職の最終選考官。現在はOSTechエンジニア採用のインターン部門と学校採用部門の責任者。

新 卒 ～ 現 在 の 経 歴 は ？

蓮尾：新卒時は東証一部上場総合商社にて新規開拓営業。法人向けの携帯や広告媒体などを取り扱っていました。2年目で営業部の管理部門の立ち上げを機に採用担当になり、その後規模は拡大。中途・新卒並行して会社全体の採用に2年、計5年程度勤務していました。そこで縁あって当社に誘われ、初めは中途採用部の数字分析と戦略立て、採用活動をしていく建付けからスタートしました。データ収集・分析、報告資料作成などをしていたらいつのまにか新卒採用部に引っ張ってこられてました。

山口：蓮尾さんって笑ってるとこ見たことないし、断られるんじゃないか？って思いながら引き抜きましたね（笑）僕はというと、情報系の

専門学校を卒業し、新卒でSEになりました。大手企業に常駐をしてシステム開発を4年半くらい担当してたかな。現場を変えないで常駐することが多いので、もちろん仕事は楽しかったけど、もっと違うこともやっていきたい気持ちで転職しました。その転職先のIT人材系の会社でなぜか営業担当になり、エンジニアのフォローやクライアント対応をしました（笑）その会社が当社の子会社になり、そのまま来た形です。始め4年くらい営業をしていたので営業歴は丸9年くらい。ある時、就活生に向けた座談会に元エンジニアとして参加したことをきっかけに、新卒採用部に誘われました。異動当時は10人程の採用数から始め、2年ほど採用担当をし、その後1年親会社に出向して採用業務をとりまとめ。2020年にまたOSTechに戻って新卒採用部門の課長として働いています。

最終選考官ならではの、ここだけの話

蓮尾：実は採用担当は学生さんの味方になって事前にいろんな情報を最終選考官に伝えてくれるよ。面談の中で学生さんのいいところをあれこれ探して、緊張する面接の場でも力を発揮できるように事前に申し送りをしてくれている。事前情報を詳しく伝えられているおかげで、最終面接の中でその学生さんの特性を聞ききれなくても、強みの推測がしやすくなり、人物のイメージがつくようになります。だから最終選考に進む時はそこまで緊張しすぎなくていい！

山口：そうだなあ、僕は採用担当から「最終選考ではこういう話もしてあげてください」と依頼をもらうことが多いな。学生さんが最終選考でどういう情報を聞きたいと思っているかを採用担当なりに考えて、学生さんの選択にプラスになる話を促してくれている。就活や今後のキャリアで大事なポイントを押さえて選考ができるので、こちらは学生さんの価値観がわかるし、学生さん側の納得度も高くなっているように思います。

過去の失敗エピソードはありますか？

蓮尾：ぶっちゃけそこまで大きな失敗はしたことはないかも（笑）でも、前職で採用担当になって2年目に責任者になったとき、全体の採用数が目標に達していなくて、それに対する行動は結構したかな。細々した業務もひたすら一人でやってたし……。その時のモチベーションは自分が採用した子たちの存在だった。一緒に働いてる人の活躍を見ると嬉しかったなあ。一番になりたい！って気持ちとか、ぜったいこれになりたい！っていう目標は正直なかったけれども、ここまでこれたのはその人たちのおかげだと思ってる。

山口さん：僕はエンジニアだった時に大きなミ

スをしました……（笑）担当していたシステムの運用当日にバグが起きて運用できず、大騒ぎに。毎日調査と修正を遅くまでやって、周りの先輩を巻き込んで修正して納品。その経験で、ちゃんとテストをやらないとダメだなんて痛感したかなあ。そのあとに飲んだビールが今までで一番おいしかったよ！僕も何かで一番になりたい、成果を出したいって気持ちはそんなになくて……それよりも何でもできる、何でも知ってる人になりたい気持ちが強いタイプかも。仕事の中でNOってあんまり言ったことがないし、何でもやるスタンスで生きてきて、今に至ります。



◀インタビュー中の二人。
似た立場なので、抱えている負担が同じ程度である分共感できる＆共通の知人が多く話が弾むそうです。
同じくらいの役職の人は皆仲が良く、仕事終わりに自然な流れで飲みに行くことも多かったのだとか。

自分が採用した学生について

蓮尾：採用担当の仕事の面白みとしては、たとえばどちらかが辞めてからも、お互い違う場で会っても、一生その人の「採用担当」でいられることだなあ。就職っていう一つのタイミングが、ひとりひとりにとってはやっぱり人生の中で大きな機会になるんじゃないかな。ちなみに俺は、面接が終わって自分が楽しかったなって思ったら「この人採用しよう」って思う（笑）

山口：ぶっちゃけ、今の最終面接官としてよりも採用担当時代に関わった人のことをよく覚えているかも。（※ということはきっと、みなさんの採用担当が一番みなさんのことを覚えてくれてるはずですね！）自分が採用に携わった人が社内報でインタビューされてるのをみた時、こんな人になったんだなってすごく嬉しかったです。

内定者へのメッセージ

蓮尾：とにかく期待してる！芯を持った大人になってほしいな。楽しく仕事するからこそ、そうなるのかもしれない。新卒だからと言い訳して、受け身のスタンスや軸のない働き方をするのは良くない。成長には素直さがすごく大事だから、周りからされる話はよく受け入れてほしいけど、そのあとちゃんと自分で考えて、

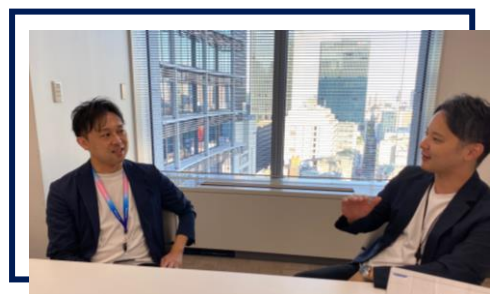
「自分の考え」を伝えられるようになってくれたらいい。わからないことをごまかそうとせず、素直に話せる「カッコいい大人」になってね。

山口：仕事ってやりがいもあるけど、基本何やっても大変なことがついてくるんだよね。逆にその中で自分が楽しめるポイントを見つけてほしい。仕事に対しても職場に対しても。大変とかつまらないとかネガティブが上回るとモチベーションが下がるし……。あとは最近、最終面接で自分をアピールしてくる人が少なく感じる。もっともっとOSTechに対する気持ち、ぶつけてほしい！

蓮尾：今では最終面接官をやってる自分たちも、学生時代は大して何もしてないし、社会人になってとてつもない成績を残したわけじゃない。でも今こうやって働いてるから心配なくていいよ。ただ、社会人になるとときには腹をくくった。学生時代は嫌なことから逃げられていたけど、社会人になるタイミングで自分は変わった

のかもしれないね。皆さんは今、できないことを恥じなくて大丈夫。これから覚悟を決めて変わろうとしていけばいいと思うよ！

山口：僕も社会人になって人柄が変わった気がする……柔軟になったかな。環境が変わるのは自分にとってチャンスだよ。大学デビューとか高校デビューみたいに！人を動かすのは大変だけど、相手を変えられるように自分自身が変わっていくことが大事。この会社は働く環境が多様だから自分を変えるチャンスも多い。不安もあるかもしれないけど、前向きに捉えてほしい。今の自分のままだでもいいし、変えたいことがあればそれを契機にする。そこで新しく仲間を作れば寂しさも解消されるから、怖がらずに進んでいって下さいね。



**次回も引き続き別の最終選考官に
インタビューします。お楽しみに♪**